

新収蔵資料抄

スリナム産昆虫変態図譜

INSECTES DE SURINAM 1726 年版



最寄り図書館に取り寄せ可

〈製作総指揮者略歴〉

白石 雄治 (しらいし ゆうじ)

オーストラリアン。昭和20年(1945)生。日本鱗翅学会会員、日本蝶類学会会員。本書の元となった『スリナム産昆虫変態図譜 1726 年版』の所有者。

幼少より世界三十数か国で蝶目を採集する熱烈な愛好家。洋書の稀覯本収集家としても知られている。

〈訳者略歴〉

岡田 朝雄 (おかだ あさお)

ドイツ文学者。昭和10年(1935)東京生。中央大学大学院修士課程修了。東洋大学名誉教授。

日本蝶類学会会員(前理事)、日本昆虫協会前副会長、日本文藝家協会会員。著書に『ドイツ文学案内増補改訂版』(共著)、訳書にヘルマン・ヘッセ『庭仕事の愉しみ』など多数。

奥本 大三郎 (おくもと だいさぶろう)

フランス文学者、随筆家。昭和19年(1944)大阪生。東京大学文学部仏文学科卒、同大学院修了。

埼玉大学教授、大阪芸術大学教授などを歴任、埼玉大学名誉教授。1991年より2010年まで日本昆虫協会会長。現在 NPO 日本アンリ・ファールブル会理事長、ファールブル昆虫館「虫の詩人の館」館長。著書に『虫の宇宙誌』(読売文学賞)、『楽しき熱帯』(サントリー学芸賞)、訳書に『完訳版 ファールブル昆虫記』(全10巻)など多数。

マリーア・ズィビラ・メーリアン／著 岡田 朝雄・奥本 大三郎／訳 鳥影社
2022.7 181p 43cm 486/+ネ27 2022.10.12 受入 定価 32,000 円+税

目 次

巻頭言 白石雄治

凡例

マリーア・ズィビラ・メーリアンより読者へ

第1図～第60図の解説と訳注
(岡田朝雄 訳)第61図～第72図の解説
(奥本大三郎 訳)ヘルムート・デッケルトのあとがき
「芸術と学問のはざま」原注・訳注

人名・著書名一覧(五十音順)

マリーア・ズィビラ・メーリアン年譜

1705年刊行初版のリスト

1726年刊行第3版のリスト

訳者あとがき

参考文献

資料概要

ドイツ人画家で自然科学者のマリーア・ズィビラ・メーリアン(1647-1717年)が、南米北東部の小国、スリナム(オランダ領ギアナ)の生物を描写・記述した『スリナム産昆虫変態図譜(Metamorphosis insectorum Surinamensium)』の初版は、1705年に発行された。

メーリアンは、母国ドイツの紙幣の肖像にもなっている人物で、『スリナム産昆虫変態図譜』は、昆虫学、植物学、博物学、芸術に大きな影響を与えたとされる。本書は製作総指揮を執る白石雄治が所有している1726年の第3版が底本で、全訳は本邦初。全72点の図版(手彩色銅版画)の細部までを見せるA3判ハードカバーの美しい本からは、訳注の日本昆虫協会の岡田朝雄、日本アンリ・ファールブル会の奥本大三郎、図版撮影の写真家、イサム高野、装丁の司修など、そうそうたる面々の訳本出版に向けた思いが伝わる。

本書の図版には、パイナップル、キャッサバ、バナナ、カカオなどの植物、マムシ、オポッサム、クロコダイル等も描かれている。また、調理法の記述などもあり、昆虫変態という表題ながら、本書はより広範な自然史、文化史にわたる記録ともいえる。

あとがきとして収録されているザクセン州立図書館長・ヘルムート・デッケルトによる「芸術と学問のはざま」では、ゲーテが彼女の作品に対して、芸術と科学、自然観察と絵画との間を「振動」していると評したことが紹介されている。デッケルト自身は彼女の芸術的業績を「構成の完全さ、均整のとれた色彩の見事さと、あたたかい理解にあふれた同情心」と讃える。

昆虫は腐った泥から自然発生すると思われていた時代に愛情を持って描かれた美しい図版を堪能するとともに、娘と二人で貿易帆船に乗り、熱帯の原生林で動植物を観察・飼育・栽培して標本を作った冒険的な行動力を持った女性に思いをはせたい。

本紙は、県立図書館が新たに所蔵した資料(図書資料・視聴覚資料)から、ぜひご利用いただきたいものを厳選してご紹介するものです。これらの資料は、禁帯出資料を除き、最寄りの図書館に取り寄せできます。

なお、本紙の内容はWebにも掲載しています。ご覧の際は右のQRコードをご利用ください。また、内容の誤り等、お気づきの点があればお知らせくださるようお願いいたします。



当館所蔵の関連書籍

Butterflies マリア・シビラ・メーリアン作品集	マリア・シビラ・メーリアン/[画] グラフィック社	ケイト・ハード/著 2018.4	13439757
マリア・ジビラ・メーリアン 蟲愛ずる女	芸術家 科学者 冒険家 サラ・B. ポメロイ/著 エイアンドエフ	ジェヤラニー・カチリザンビー/著 2022.3	13761440
マリア・シビラ・メーリアン 17世紀、昆虫を求めて新大陸へ渡ったナチュラリスト	キム・トッド/[著] みすず書房	屋代通子/訳 2008.9	12917431
情熱の女流「昆虫画家」メーリアン 波乱万丈の生涯	中野京子/著 講談社	2002.1	08973026
境界を生きた女たち ユダヤ商人グリックル、修道女受肉のマリ、博物画家メーリアン	ナタリー・Z. デーヴィス/著 平凡社	長谷川まゆ帆/訳 2001.9	07899206

※ 書誌情報の数字は、発行年、当館資料コード

著者紹介

マリーア・ズィビラ（シビラ）・メーリアン

フランクフルト生まれの植物学者、昆虫画家。銅版画家・出版業者の父の影響で、幼少期から植物・昆虫の絵を描く。3歳の時に父が死去。1665年に継父の弟子と結婚し、絵の具やワニスの販売で生計を立てる。1669年から1683年の間に花の本3冊、昆虫の本2冊を刊行。夫と別れて子とフランクフルトに戻ったのち、1685年、宗教共同体・ラバディ派の一員となる。

1690年にオランダに移住。1699年にアムステルダム市の支援を受けて次女とともにスリナムへ渡り、昆虫や植物を観察・記録した。1701年、黄熱病に罹患してオランダに帰国。1705年、『スリナム産昆虫変態図譜』の初版本を刊行。1714年に脳卒中で倒れ、貧困のうちに死去した。

その墓は現存していないが、彼女にちなんで命名された多くの植物・昆虫にその名を残す。

… 1701年6月11日に彼らは脱皮して、葉の上に見られるような繭をつくりました。そしてこれらのうちの1つから1701年6月27日に（私がオランダに帰る船に乗った後に）このおなじ葉の上に見られるような奇妙なガが抜け出しました …

（第28図解説・部分）